

	<h2 style="text-align: center;">世直しおじさん待望論</h2> <p style="text-align: center;"><b>SCE・Net 原戸卓雄</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>E-86</b></p> <p>発行日 2016/3/28</p>
---	--	---

昨年 5 月から、ブラジルのアマゾンの入口部の (Para 州) Barcarena という町、まさに赤道直下、その通り Equinocios という名のホテルで過ごしています。ブラジルと日本とを四か月ごとに往復しながら、仕事をしています。その前にはオーストラリアの Perth に 4 年住んでいました。古い話ですが、SCE-Net 会員には「兼高かおる」の名前をご記憶の方も多いでしょう。最近 TV で世界各地の観光案内をやっていますが、その走りの案内人です。彼女が「Perth は一番住みたい町」と言ったとか…いい街です。オーストラリア、ブラジルそして日本と三カ国 (Perth, Barcarena, 東京・大阪・新居浜…町の大きさも人口も全く異なります) で暮らしての、地域限定の経験から「世直しおじさん」期待論です。比較文化論ができれば面白いですが、そんな才覚も資料もありません。

しばらく暮らしてみると、旅行者ではわからない良さ、問題点も見えてきます。その中で、対比から 2, 3 のトピックスを考えてみたいというのが、この小文です。SCE-Net の高度な「窓」を曇らせることにならなければいいのですが…。

私のいるところは、30 年前にアルミニウム製錬工場を建設 (三井アルミニウムの技術)、20 年前にアルミナ工場 (Alcan の技術、日本軽金属も貢献) が隣接してつくられ、数次の増設をしてきたところでは、町のメイン通りは片側二車線で広い中央分離帯にはマンゴの樹も植わっていて立派です。開かれた当時は、社員のための社宅に全く同じ家が並んでいて、友達の家がどれだかよく間違えそうになったという話も聞きました。30 年は町の歴史としては短い部類でしょう。しかし、この町のインフラの崩壊は大変です。道路はつぎはぎでガタガタ、あちこちに陥没もあります。歩道の脇にある排水溝は蓋の無いのがたくさんあります。段差もまちまちで大きく、崩れていてガタガタです。ターレスならずとも、溝に落ちない、けつまずかない注意をします。30 年余りでこうもガタガタになるものかと思えます。その間に工場は何度か増設もし、右肩上がりです。政治が悪い、手抜き工事とメンテの悪さだといひます。Perth は町の計画がもっといいのか、美しい suburbs が広がっています。もっとも最近、中心部 (ウオーターフロント) の再開発をしていますが、昔の計画が悪い…と、案作りに苦労したという話を聞きました。100 年の計は難しいものです…Perth はそれを少し超えるくらいでしょうか。

ブラジルも、オーストラリアも同じ資源国です。数年前には石炭、鉄・銅・アルミニウムの原料鉱石が買い漁られていました。レアアースの売り惜しみをした国もありました。そのころ私は Perth に住んでいて、日本の資源獲得の遅れを忸怩たる思いで眺めていまし

た。そのピークを少し過ぎたあたりに安倍政権が発足し、資源外交に力を入れ始めました。結構なことだと思いましたが、今もその基本姿勢は崩してはならないと思っています。現状は余剰感に両国ともに苦しめられているようですが…。資源は有限、必ず枯渇する。その時間的なずれをどう克服するかは課題でしょうが、中長期に安定的に考えるべきものだと思います。そういう資源論をここで展開するつもりもありません。しかし、日本企業でブラジルへの投資をしたにもかかわらず、早々に撤退する動きにあるのは残念なことです。また、Perthでも、そしてここでも資源輸出でとどまっていたはだめだ、もっと付加価値を付けなければ…とよく聞きます。

ここで一緒に仕事をする人たちは、いい人達ばかりですが、のんびりしている国民性からか、なかなか能率が上がりません。議論好きでもあります。今の話題はもちろん「汚職」です。日本でもよく報じられているので皆さんご存知のとおりです。民主的な選挙ができるのだから、変わるでしょう？と言うと、否、汚職は昔からで、政治の世界だけでなく、民間の企業にも巣食っている、選挙では買収がある。染みついていると変わらないといえます。では、何が問題だい？どうすればいいのだろうか？と聞くと、一様に「教育」を根本的によくしなければいけないとの答えです。

教育と一言で言いますが…この家庭では、Perthでもそうでしたが、誰かの誕生日だ、なんだかだ…とよく家族、親類が集まり、シュハスコ（ブラジルバーベキュー）をやっています。平日は離れて暮らしていても、土日には親の家で食事をして過ごし、日曜日の夜には自宅に戻るといふ人も大勢います。そういう家庭の子供はよく躰けられ、考え方もしっかりしているように感じます（ごく少数かもしれませんが）。しかし、学校教育となると、小学校から大学までいろいろと問題があるようです。学校、地域間格差も大きいようですし、先生の質も問題だと聞きます。企業内では…これは日々経験していることですが…企業間の差が非常に大きい。いい企業文化を長年にわたって培ってきた企業で育った人は仕事の進め方も、技術力もしっかりしていますが、のんびり企業で育った人はそののんびり体質から抜け出せずにいる。官僚主義が問題という話もよく聞きますが、社内官僚主義もはびこっているようです。

日常生活を送るのに、何が一番大事かというやはり安全でしょう。私の今いる辺りは6-7年前までは非常に安全な町だったようですが、現在は残念ながらそうではありません。ピストル強盗（押入り、路上、…）の話は時々聞きます。ホテルから、スーパーへは10分余りですが、途中両側が森になっています。土日の買い物かごの散歩は、人通りが少なくなる12-15時は歩かない方がいいと注意を受けています。路上でのスマホの使用も危険だといえます。家は鉄格子で閉ざされています。Perthでは、まだ道路から芝生があって、建物に続くという開放的な家もだいぶありますが、しっかりした塀を設けるところが増えました。これも不用心が第一理由です。

問題ばかり上げていますが、ここでうれしかったことを一つ：スーパーで買い物をして、レジの列に並んでいるとき…前へ行けと押し出されました。失礼な奴と思ったら違うので

す。「高齢者は列の一番前でいい」行けというのです。言葉が通じませんから、実際は物理的に押してもらったわけですが、一番前でレジを済ませました。みんながみんなそうしているわけではないけれど、妊婦さん、高齢者は優先されています。このスーパーだけでなく、ほかの店でもそんな優先の恩恵を受けています。Perthでは(まだ若かったせいかな?) そういう経験はありませんが、「車いすマークの駐車場」に普通の人は絶対に駐車しないのが印象的でしたが、ここもそうです。電車の優先座席もそうです。日本の優先座席はあってなきがごとし…ここには電車はないので、比較はできませんが…。出産時の休暇の取りやすさはここも、Perthもおなじです。日本だけが難しい。

Perth, ブラジルともに、日本びいき、日本に好感を抱いている人が多いのもうれしいことです。車、(かつては)家電製品、映画・アニメ(黒沢、宮崎監督)、漫画、そして日本食も貢献してくれているでしょう。ブラジルでは移民で来られてこの国の発展に貢献してこられた方々のおかげも大きいでしょう。企業では5S, トヨタウエイを取り入れて、改善に取り組んでいます。そのメンタリティーが評価されています。

しかしながら、ここから日本を眺めていて安穩としていいのかと考えます。Perthにいるときには一年も続かない首相の度々の交代劇にたびたび皮肉られました(鯨も含めて)。家庭の崩壊、学校教育の崩壊がだいぶ前から叫ばれています。学校では子供の「助けて」のサインに気づかぬ先生の多さ、無責任さなどなど。企業はというと、マンションの傾き、トンネルの崩落惨事、手抜き、偽装、粉飾による倒産危機、経営の誤りによる身売り、…、民・官製の談合、政治の世界では尽きぬ金の話、選挙制度改革の議論に代表される無責任政治家などと挙げていけば、きりがなほ問題山積です。日本再生の切り札「第三の矢」の模索も過去形になりつつあります。技術屋だからではないですが、一番大事な部分で、豪、伯ともそれぞれに悩んでいるところです。日本の安全も最近の検挙率の低さに表れているように次第に脅かされてきています。世界ではもっと問題は大きく、テロ・IS問題、EUの崩壊の危機、(米)大統領選の狂気、(独)VWの不正…暗澹たる世界です。

勿論、いい学校、企業、政治家、官僚もたくさんあって、夢をもって、努力されています。しかし、日本全体にもっとすそ野が広がっていかないと、ここで見るインフラの崩れと同じ社会になるのではないかと懸念します。問題が多すぎます。

長い歴史の中で、日本のいい文化を築きあげてくれた先達がいる、そこに生まれたことを幸いと思います。戦後、貧しい時代から高度成長期を経て、日本も豊かな国になりました。膨大な国の借金をどう棒引きするかを先送りして、今もその遺産で豊かさの恩恵を受けています。いつまでも続くことではありません。

SCE-Netの会員の方々はこの高度成長を中心になって進めてこられたことでしょう。長い歴史の中で、紆余曲折を経ながら、人間の理性が培い築いてきた社会の崩壊の危機に、現在の先進国は日本も含めあるのではないかと思うのです。先進国が独善化・崩壊すれば、発展途上国は当然発展が停滞し、世界が崩壊する危機につながります。理性の社会をつくりあげてきたのは個々人の理性で、その個々人は基本的には各家庭で教育を受

けて育ち、いい社会・文化の中で磨かれたのだと思います。そういう家庭・社会の再構築に今、高齢者も含めた大人が責任を持って取り組まないと…と思うのです。高度成長期に日本の発展に貢献した、十分頑張ったのだからもういいという友人もいます。高度成長期に負の遺産も残していることへの反省が足りません。

我々は TV の前の評論家になっていないか？「本を捨てて街に出よう」と言った人もいます。SCE-Net 会員の皆さんにはもう一度街に出られませんか？しばらく休んだ後ですと、会社時代とは違った視点で、いろんなことが、世界が見えてくることでしょう。日本社会がそんな「世直しおじさん」を求めているように思えてならないのです。”Charity begins at home.”という研究社の英語会話テキストの第一課もあわせて再考、実行したいものです。

